



対馬丸記念館と、遺族・サポーターを結ぶ、ふれあいの情報誌

対馬丸 通信

発行：(財) 対馬丸記念会
発行人：高良 政勝
編集：対馬丸記念会事務局

Tsushima maru press

平成 20 年 12 月 20 日発行 第 16 号

平成 20 年 対馬丸 慰霊祭

■と き：平成 20 年 8 月 22 日 午後 2 時
■と ころ：小桜の塔



平成二十年対馬丸慰霊祭において、翁長雄志那覇市長より対馬丸犠牲者への哀悼と平和への思いを込めたご弔辞を寄せていただきました。

追悼のことば

平成二十年対馬丸慰霊祭が執り行われるにあたり、弔辞を申し上げます。

対馬丸記念館開館から四周年を迎える今年、ここ旭ヶ丘公園の「小桜の塔」の前に立ちますと、改めて、犠牲になった御霊への思いとともに、平和を祈念する熱い気持ちが高き起こってまいります。

皆様ご承知のとおり、今から六十四年前の今日、昭和十九年八月二十二日、疎開船「対馬丸」は鹿児島県トカラ列島沖でアメリカ軍の潜水艦「ボーフィン号」の攻撃を受け、学童七百七十五名を含む、四百十八名の犠牲者を出しました。

乗船していた疎開学童の八割が那覇市内八校の学童であったということで、本市としても今大戦に於ける最大の悲劇であったと受け止めております。

沖縄戦を体験した私たち那覇市民は、「平和都市」を基本

理念に掲げ、国内外各地と交流を進めて、様々な形で平和を祈念する思いを常に発信してまいりました。それでも、今現在、世界各地で紛争やテロが起こり、女性、子ども、お年寄りといった、戦闘とは無関係の一般市民に大きな犠牲がでております。大変残念なことであると思います。

私たちは日本の慰霊祭を機に、いま一度「平和都市」那覇市の市民として、沖縄戦の実態を正しく伝え、戦争の悲劇と愚かさの認識を全世界と後世の人々に広めるため、取り組んでいかなければならないと思います。

対馬丸犠牲者の御霊のご冥福と世界平和をここに改めて祈念申し上げますとともに、あわせてご遺族の皆様方のご健勝、ご多幸を祈念いたします。追悼のことばといたします。

平成二十年八月二十二日

那覇市長 翁長雄志

(子儀弘子副市長代読)



対馬丸の日

児童生徒は、一生懸命清掃をしました。時折、感慨深げに慰霊碑を見つめる児童もいました。



慰霊碑の周囲には、たくさんの花が太陽に向かって元気に咲いています。

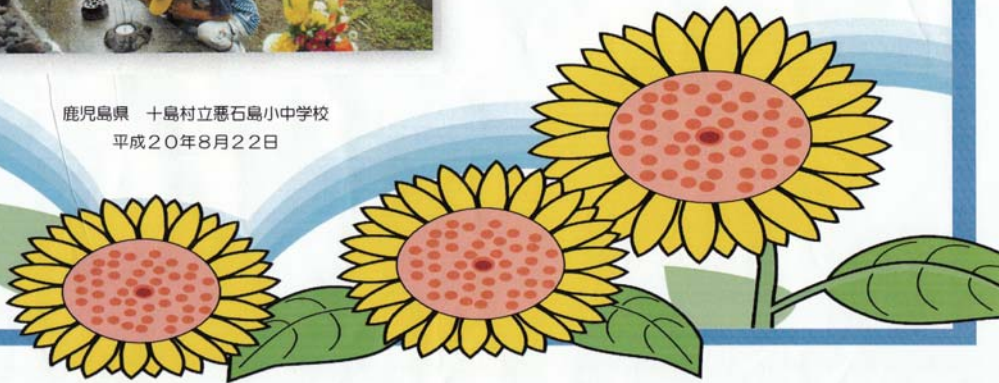


島民の方々が協力してくださいました。おかげさまで一際きれいになりました。



児童生徒をはじめ、島民の方々や観光客の方もお線香をあげました。最後は「世界に一つだけの花」を合唱しました。

鹿児島県 十島村立悪石島小中学校
平成20年8月22日



平成二十年度対馬丸慰霊祭が今年もしめやかに小桜の塔にて執り行われました。式典に先立ち、那覇市立若狭小中学校の児童による、群読「慰霊碑」と合唱「平和の鐘」が犠牲者に捧げられ、その後首里城下にチョウを翔ばそう会のご協力でおオゴマダラ百頭が放蝶され、平和への想いを新たにしました。来賓焼香には、沖縄総合事務局影山洋二次長を始め、関係官庁や県選出国会議員の諸先生の他多数ご参列戴きました。翁長雄志那覇市長（與儀弘子副市長代理出席）には学童犠牲者の半数が那覇市民である事から、ご丁寧な弔辞を賜り、今年も無事慰霊祭を終えることができました。

また同日、悪石島に建立されている対馬丸慰霊碑においても、碑周辺の清掃奉仕をして頂いている、悪石島小中学校の児童や島の人々が対馬丸の日として、清掃と焼香をして下さいました。あわせて、対馬丸記念会からのお供え物も上げていただきました。

同校児童が対馬丸犠牲者に寄せる想いと、活動をご紹介します。

悪石島小中学校より送付して頂いたものを複製転載させていただきました。

あおぞら活動とおして

悪石島小中学校 一年
有川 真里奈

低学年の時「なぜあおぞら活動をしないといけないのか」と疑問に思いました。「みんながしているから私もしよう。」と言う気持ちでしていました。しかし、高学年になって対馬丸慰霊碑について書かれてある本を読んだ時、「あおぞら活動」がなぜずっと行われ続けてきたのか分かりました。その本に私と同じくらいの子どもたちが、戦争で命を落としたりと書かれていました。私は悲しい気持ちになりました。戦争で命を落とした子供たちの魂が安らかに眠ってほしいと思います。

これまでの先輩たちも、同じような気持ちで活動に取り組んでいたと思います。私は、亡くなった方々に安らかに眠ってもらいたい、そして今までの先輩たちの伝統をこれからも引き継いでいきたいと思います。

私は、これからも平和の祈りを込めて慰霊碑をきれいにしていきたいと思います。



16人に卒業証書

対馬丸犠牲者慰霊祭

一九四四年八月二十二日に米潜水艦に撃沈された疎開船「対馬丸」の犠牲者の慰霊祭が二十二日、那覇市若狭の「小桜の塔」であった。慰霊祭に続き、命を落とした甲辰国民学校六年生への卒業証書授与式が行われ、十六人の遺族に証書が手渡された。

卒業証書は、四五年春に卒業予定だった同窓生たちが九一年に作成。対馬丸で犠牲になった三十三人の証書は同級生の大城正樹さんとなつた。

対馬丸記念会の高良政勝会長（右）から卒業証書を贈られる対馬丸犠牲者の遺族。22日、那覇市・対馬丸記念館……

（76）が長年保管していたが、昨年末、対馬丸記念会に寄贈された。

慰霊祭の後に行われた授与式では、義父が同校教師だったという同会の高良政勝会長（68）から、名乗り出た十六人の遺族に証書が手渡された。

高江洲清一さんの証書を受け取った妹の清子さん（70）は「兄の名前が呼ばれたとき、たまらない気持ちになつた」と涙を流した。二十二年前に亡くなった母カメさんはあることに「自慢の息子だつた」と振り返り、暇さえあれば慰霊塔に足を運んでいたという。「母が生きていたら、この証書をどんな思いで受け取つただろう。これから平和の礎へ行き、兄に『卒業』を報告します」と話した。

甲辰国民学校は現在のパレットくもじ（那覇市久茂地）付近にあつたが、沖縄戦の前に日本軍の兵舎として接収され、そのまま廃校となつた。

沖縄タイムス 8月23日 朝刊

甲辰国民学校卒業証書授与式

学童遺族へ手渡される

時:8月22日 ところ:対馬丸記念館

二〇〇八年度対馬丸慰霊祭の後、記念館において甲辰国民学校の児童遺族に、卒業証書が手渡されました。これは、一九九一年に同級生が行つた卒業式のとときに手元に残つた対馬丸犠牲者の証書を是非遺族に手渡してほしいとの申し入れで行われ、対馬丸犠牲者以外にも含め十六名の遺族に手渡すことが出来ました。

学童疎開 悲劇伝える

秋篠宮ご一家が見学



遺品のランドセルを前に説明を受ける（左から）秋篠宮さま、紀子さま、眞子さま、佳子さま。右は高良政勝館長=16日午前、新宿文化センター（代表撮影）

●沖縄・奄美メモリアルウィーク

「学童疎開の悲劇を伝える」企画展

時:8月16日 所:新宿文化センター

主催:子供王国首脳会議 全国豆記者交換会

子供王国首脳会議（松平恒忠総裁）と全国豆記者交換会（山本和昭会長）が八月十五日から二十一日までを「沖縄・奄美メモリアルウィーク」と位置付け活動を展開、新聞報道にあるように、「学童疎開の悲劇を伝える」企画展を八月十六日から二十一日まで開きました。展示には、当館が移動展用に準備している、対馬丸事件の概要パネルが貸し出されました。

開会セレモニーに、秋篠宮殿下がお見えになると言う連絡を頂き、高良会長が急遽記念館のランドセルを携えて上京し出席しました。

講演と秋篠宮ご一家へのご説明をした会長は「直接皇室の方へお話が出来たことはとても有り難く、紀子様より子どもたちにも有意義でしたと言ってお言葉を頂戴致しました」と語りました。

同企画展を実施し、ご皇族のご来場に尽力下さいました、松平恒忠・山本和昭両氏に感謝申し上げます。

琉球新報 8月17日 朝刊

県外での語り部活動二題

北海道と熊本県で、対馬丸記念館の語り部上原清、友寄賢吉両氏が講演し対馬丸事件を伝えました。

両氏の講演の様子や周辺の話題が地元紙でもとりあげられました。

助け合いの心大切に

校の町中
別町小
対馬丸沈没
事件生
上原さん
戦争体験語る



【本別】本別空襲を語り継ぐ町歴史民俗資料館の語り部講演会がこのほど、特別展「わがまちの7月15日展」に開かれ、町内、学校で開かれた。いずれ

も児童疎開船対馬丸沈没事件の生存者、上原清さん(74)＝沖縄県在住＝が登壇し、自身の漂流体験などを語り、午前中は中央と仙美里小、勇足小の3、6年生計350人、午後は本別中と仙美里中、勇足中の1～3年生計254人を対象に行われた。講演で上原さんは、対馬丸が米国潜水艦の魚雷攻撃を受けた時の船内の状況や、いかに漂流した時の体験を中心に紹介。多くの子供が助けを求めながら海に沈んでいた様子や、漂流中はたまたま生き延びたことを考えて必死に食糧を切らさず生きていかなければならぬと自身の漂流体験を切々と語った上原さん(左から2人目)＝本別中

北海道中央部の南西に位置する、本別町の本別町歴史民俗資料館において、七月十四日～三十二日までの会期で、「わが町の七月十五日と児童疎開船対馬丸の全貌」と題した特別展が記載されました。

これは、本別空襲を語り継ぎ次代へ伝える目的で、二〇〇一年から取り組まれている活動で、地元の戦争被害から戦争そのものを問い直すというテーマでかきさいされています。

今年には戦争と子どもたちという視点で「対馬丸事件」がとりあげられました。対馬丸のパネル展示とともに、生存者で語り部の上原清さんが演壇に立ち、事件の概要を伝えました。また、町内の二校で生徒を前に話し、戦争の愚かさ、命の大切さを語りかけました。

7月22日 毎日新聞 十勝

「七月十五日展」の概要決定

「子供の犠牲」に焦点

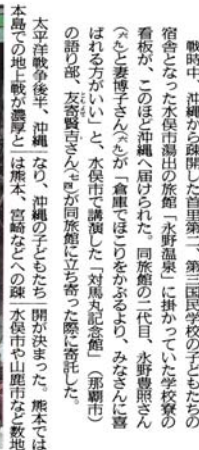


【本別】本別町歴史民俗資料館は、七月十五日展の概要を決定した。特別展「わがまちの七月十五日展」の概要は、七月十五日の対馬丸沈没事件を中心に、戦争被害から戦争そのものを問い直すというテーマで、地元の戦争被害から戦争そのものを問い直すというテーマでかきさいされています。今年には戦争と子どもたちという視点で「対馬丸事件」がとりあげられました。対馬丸のパネル展示とともに、生存者で語り部の上原清さんが演壇に立ち、事件の概要を伝えました。また、町内の二校で生徒を前に話し、戦争の愚かさ、命の大切さを語りかけました。

十勝毎日新聞 5月23日

水俣に疎開した児童が生活学校寮看板沖縄へ

保存の旅館「思い出、大切に」 主人が寄贈



戦時中、沖縄から疎開した首里第一、第三国民学校の子どもたちの宿舎となった水俣市湯田の旅館「永野温泉」に掛かっていた学校寮の看板が、このほど沖縄へ届けられた。同旅館の二代目、永野豊照さん(76)と妻博子さんが、「倉庫(ほり)をかけるより、みなさんに喜ばれる方がいい」と、水俣市で譲渡した「対馬丸記念館(那覇市)の語り部、友寄賢吉さん(60)が同旅館に立ち寄った際寄贈した。大正洋戦争後半、沖縄、湯田の子どもたち、開かなくなった、熊本では本郷での地上戦が響くのは熊本、宮崎などへの疎、水俣市や山鹿市を敷地

区に約二千六百人が疎開新大泉市史によると、一九四五年九月に水俣市に疎開した約二百人のうち約八十人が湯田の湯田旅館(現湯田温泉)に滞在していた。湯田温泉旅館は、湯田温泉の語り部として、同旅館が「鶴泉寮」となっていた。午前授業、午後寮で水俣を語り、友寄さんは、水俣病資料館の語り部の交流事業で水俣を語り、友寄さんの友人で、同旅館に疎開した那覇市田原良町の高城水一さん(76)は、「看板が壊れていなくなると、驚いた。よく保存してくれて、うれしかったです。沖縄出身者には、水俣の気候は暑く、食糧も乏しかった。宮崎で疎開する計画で、その後、その後の展示について検討を進めている。

学童疎開資料寄贈入手

昨年から語り部として活動している、友寄賢吉さんが水俣病資料館の語り部との交流事業で、水俣市を訪れ「対馬丸事件」と対馬丸記念館における語り部活動の概要を話してきました。これは当事者の高齢化など共通の課題を抱えることから、水俣病資料館の申し入れで実現したものです。熊本県は、沖縄の学童疎開の約半数を受け入れるなど、沖縄の学童疎開に深いかわりのある場所です。そうしたことから、今回当時沖縄の疎開学童の宿舎だった旅館から貴重な資料が対馬丸記念館に寄贈されました。

対馬丸記念館では、今後の展示の方向性として対馬丸事件だけでなく、学童疎開全般にも広範な資料収集・展示を進めていく考えです。

(株) 山田養蜂場様より 対馬丸平和基金を 頂戴いたしました



十月十一日、岡山県にある(株)山田養蜂場の山田英生社長と社員の方々が対馬丸記念館を訪れ、対馬丸記念館の平和活動に役立てて下さいと一千万円を寄附して下さいました。

山田社長は昨年暮れにも対馬丸記念館を訪れ、百万円をご寄附下さり記念館運営に大きなサポートをして頂いています。

贈呈式に先立ち、山田社長は、十四歳で亡くなられた、ご自身の妹さんのことで家族全員が深い悲しみに包まれたことが、同社の会社理念「常に一人のために」の原点であることを話され、昨年沖繩を訪れた際に対馬丸や記念館の活動について知り、同理念に合致するとの思いで支援を決めましたと挨拶されました。

また、山田社長は「戦争は容赦なく命を奪う。対馬丸の話は日本・世界にとつても後世に語り継ぐべき重要な史実だ」訴えました。

同社は今年六月から研修旅行として社員を沖繩に派遣、全社員が対馬丸記念館を見学し、平和や沖繩の歴史・文化の学習を深めています。

高良館長は、寄附金は来年五周年時の一部リニューアルや予定している「証言者DVD」制作など、対馬丸「山田養蜂平和基金」として、大切に使用したいとしています。

□長枝万祐さん『対馬丸』公演再び

東京で「ぬち・どう・たから」

疎開船「対馬丸」の悲劇プロと公演

太平洋戦争中、沖繩からの学童疎開船「対馬丸」が米軍の攻撃で沈没し、約500人が犠牲になった悲劇を取りあげたプロ劇団「結い座」の公演に、港区の小学生23人が特別参加する。「命ある限り生き続けなければ」というメッセージを伝えようと、熱のこもった練習を繰り返してきた。4、5日に赤坂区民ホールで公演がある。(五十嵐悠)

大切な命の 大考 小学生ら思い伝える

対馬丸は沖繩から長崎に向けて出港した翌日の44年8月22日午後10時過ぎ、米潜水艦の魚雷攻撃を受け鹿児島沖で沈没した。乗り合わせた1788人のうち、名前が判明した人だけで1418人が死亡し、775人は疎開先に向かう途中の子もたたった。日本軍は沈没の事実を隠したため救助活動ができず、しばらくは漂流を続けながら力尽きて死亡した子どももたくさんいたという。

この事実を下敷きにした劇の題名は、沖繩の方言で「命こそ宝」を意味する「ぬち・どう・たから」。沈没した船から海に投げ出された4人の子どもたちが、いかに乗って8日間漂流し「生きるための闘いをやめなければいけない」と伝えたかった。子どもたちも劇の体験を通して命の大切さを考えてくれるようになったと話す。



沈没前の楽しかった船内の様子を練習する子どもたち=港区赤坂8丁目の赤坂小学校

結い座の昨年の大阪公演で、地元の子も参加し、評判がよかった。そのことを聞いた赤坂のNPO関係者が、赤坂近くの港区立小学校にPTAなどを通して子どもたちの参加を呼びかけ、青南、赤坂両小学校の23人が出演することになった。子どもたちも交えた練習は赤坂小学校で8月から続いていた。母艦を探したいかたの上で、母親に抱きかかえられて絶命する少女を演じる赤坂小6年の

福原梨々花さん(11)は「少女は途中で死んでしまてかわいそう。もっとなんで生きたかったんだと思」。少女の母親役を演じる三枝万祐さんは、脚本も手がけた。沖繩で生存者も聞いた実話をもとにしたという。「命がある限り、生き続けなければいけない」ということと劇の体験を通して命の大切さを考えてくれるようになったと話す。

劇は子どもたちの窓口になったNPO法人「野町公園遊びを考える会」の光田至秀会長(83)は「子どもたちは知らない大人や子どもと一緒に劇に参加したこと、今までに経験したことのないものを学んだと思う」と話している。公演は4日は午後7時、5日は午後1時半と午後4時半の計3回。料金は大人3千円、小学生1500円。各回とも20組40人の無償招待がある。問い合わせは劇団「結い座」事務所(045・624・4497)へ。

今春「国立劇場おきなわ」で上演された三枝万祐さんの対馬丸劇

「ぬち・どう・たから」が新たに

改編され、10月4日・5日赤坂区

民ホールで、児童生徒とプロの役

者による共演で上演されました。

同公演は、昨年の東京・新宿、

そして沖繩公演の後、関西でも上

演されましたが、今回再び東京で

上演され、対馬丸を通して平和と

命の大切さを訴えました。

記念館運営日誌

視察

□3月28日

厚生労働省社会・援護局 援護企画課 外事室 岩楯信和 外事第一課 長、同 援護課 大場寛之 課長補佐

□7月8日

内閣府 沖繩振興局 北村信 総務課 長、同 沖繩総合事務局 総務部 調査企画課 前津盛和 課長補佐

□7月14日

内閣府 樋谷裕司 大臣官房 審議官 (沖繩政策)、同 沖繩総合事務局 総務部 (「アジア青年の家」事業推進PT) 高良正剛 主任調査官



□7月28日
内閣府 沖繩振興局 吉住啓作 参事官



□8月22日

慰霊祭来賓 厚生労働省社会・援護局 援護企画課 土肥克己 課長補佐、同 外事室 小島堅二 外事第二係長

来館

□10月12日

アルピニストで環境問題にも取り組むの野口健さんが、那覇まつり・環境イベントの合間をぬって来館しました。

小桜の塔に献花後館内熱心に見学され、翌日さっそく対馬丸と平和に対する思いなどの感想を自身のブログに載せ、対馬丸記念館をアピールして下さいました。



□11月2日

S MAP の中居正広さんが映画「私は貝になりたい」の全国キャンペーンで来沖され、忙しいスケジュールの合間をぬって記念館を訪れました。

高良館長の案内で館内を真剣な眼差しで見回り、その後、小桜の塔に献花して下さいました。

寄贈

□8月20日

映像プロデューサーで文筆家の早乙女愛さんが今夏出版した、「海に沈んだ対馬丸」子どもたちの沖縄戦」を三十冊頂戴いたしました。

□8月22日

対馬丸事件取材班による、「満天の星」対馬丸 真実の証言」の編著者グループ(株)ポップインターナショナル 田中健社長より、同書百五十冊頂戴いたしました。

イベント・その他

□7月20日

裏千家青年部によるチャリティーお茶会が開かれました。



終了後、収益金と対馬丸とローマ字で刺繍されたお手拭きを寄贈して頂きました。

□7月20日

第10回特別展「対馬丸と疎開」やーさん・ひーさん・しからーさん」が始まりました。

対馬丸を通して学童疎開をとらえる展示で、証言記録ドキュメント「やーさん・ひーさん・しからーさん」の上映とともに生存者の証言パネルや当時の教科書、復元さ

れた食事、鶴泉寮の現物看板など疎開に焦点をあてた企画展です。

□9月4日

第9回チャーガンジュー講座が「沖繩の昔話」と題して開かれ、元小学校教諭でむかし話研究家の宮沢貞子先生が講話されました。

席上、先生の著書二十冊も寄贈して頂きました。



□8月17日

慰霊祭前に、小桜の塔をきれいにしようと、沖繩ベンチャークラブと上山中学校剣道部の皆さんが労働奉仕に集結、朝七時からたっぷり二時間汗を流し、きれいに磨きあげて下さいました。

記者会見

□8月13日

甲辰国民学校の対馬丸犠牲者への卒業証書授与の依頼があり、慰霊祭後の式典として執り行うことが決まり、記者会見を行いました。

マスコミ各社に多数の参加を呼びかけて頂いたところ、大きな反響がありました。(3頁参照)

ご寄附

□4月2日～10月11日

泊先覚頭彰会、しますえよしおチャリティーコンサート実行委員会、重田辰也、宮里善次、松田政勝、会田裕之、岸本麗子、三枝万祐、外間宏市、外間房子、外間美香子、浜崎盛秀、嶋田玲子、又吉治子、外間邦子、具志堅興一、高良政勝、瑞慶山良和、幸地秀子、比嘉澄子、友寄賢吉、石澤正夫、中山世音子、琉智、下里里加、儀間真勝、豊見山常子、チャリティーお茶会、島袋則子、屋比久嘉光、立正佼成会練馬協会、(有)愛和、謝花澄子、渡嘉敷テル子、嶺井憲子、伊佐マス、具志八重子、瑞慶覧長悦、平良輝子、高良英三、當間栄安、仲宗根道子、名城悦子、糸数昌和、西岡利美、又吉慶子、中島高男、吉田薫夫、甲辰国民学校一同、上原妙、垣花がじゃんびら会、宮城マリア、平良啓子、下地寛保、富山清子、(株)山田養蜂場
以上の方々からご寄付をいただきました。心よりお礼申し上げます。